「二つの側面～葛藤を恵まれる人生」

●マスク、あれこれ

以前、芸術家·横尾忠則さんを特集する『日曜美術館』（NHK Eテレ、日曜日9時放送）を見ていると、横尾さんとお話しするキュレーター（学芸員）さんが、大きく口を開けた絵が描かれたマスクを付けていました。

面白いなと思っていると、これは新型コロナ（COVID-19）の世界的パンデミックより前に作られた横尾さんの「作品」の一つなのだといいます。それを聞いて、「潔いな」と感じました。

なぜなら、新型コロナのパンデミック以降、マスクには色々なマスクが生まれてきました。中には、さまざまな絵やデザイン、言葉や主張などが書かれたものがあります。

もちろん、マスクに意匠を凝らして、販売活動を活性化して、金銭的な利益を求めることは、私たちの根源的な姿です。私は、それを否定するつもりも、卑(いや)しむ気持ちもなく、むしろ、そうした努力や工夫をすることを大切に思います。

しかし、儲かるか儲からないかという経済活動を自分の都合で考える以前に、それが面白いからする、それが楽しいからする、という姿勢も素晴らしいと思うのです。

そこでふと考えたのです。

たとえそれが、世の中の常識と違っていても、本当だからする、真実だから主張する、という姿勢は、とても興味深いことではないでしょうか。

●お寺の掲示板、あれこれ

2020年2月16日（日）、東京新聞「生きる」欄に、江田智昭（浄土真宗本願寺派）住職が「今どき　お寺の掲示板（下）お寺の掲示板大賞」に二つの言葉を紹介され、次のように説明してくれています。

「人の悪口はうそでも面白いが、自分の悪口はほんとでも腹が立つ」（愛媛県龍沢寺(りゅうたくじ)）、これは、「自分の性格の悪い部分は見たくないという真理」。

「隣のレジは、早い」（東京都延立寺(えんりゅうじ)）、これは、「他者と比較することによって苦しみが発生するメカニズム」。

これらは人間の抱える煩悩の根本を、実に見事にとらえているといいます。

どちらも、自分にとって、都合が悪いことを気づかせるものなのに、何故か、引きつけられるように思います。それは、このような指摘に触れるとき、私たちは、損得という都合を超えたものによって、今まで気づかなかった自分に気づかされることの潔さを感じるのではないでしょうか。

たとえ、常識とは違っていても、自分の姿に気づかされることは、私を立ち止まらせるのです。

●私の二面性に葛藤を頂く道

ところで、社会には、悲惨な傷害事件が起きたり、人権尊重に背いたり、政治的に民主制に反する発言などがくり返されます。電車内で無差別殺傷が起きたり、タレントを豚にたとえたり、ホロコーストの大量殺人ごっこなどと言ったり、かつて、ナチスの手口に学べなどと発言した人もいました。

それらは、民主的にお互いを尊重することを忘れ、暴力的に相手を屈服したり、支配させようとする発想が、私たち人間には根深くあることを教えられます。

何故かといえば、私たちは、相手の存在を否定してまで、自分の主張を認めさせようという心があるからです。

私自身がそうですが、生まれながらの自分は、自分の都合で考え、生きているとは気づかないようです。これが仏教でいう迷いの自我の姿です。

あるお寺の掲示伝道の言葉に、

「生きたまま　殺したのが　一番おいしい」

とありました。

これには参りました。病気や寿命で死んだ魚や家畜を食べたいとは、誰も思わないのです。

「新鮮で美味いねえ」と言っている時には、「相手の存在を殺しても、自分のあり方や要求を認めさせたい」という自己中心的な姿は、全く忘れています。

経済性を超えているのは素晴らしいことだとか、自分を気づかせてくれる言葉は引きつけられるなどと言いながら、本当に自分の姿を知らされることは、実は、深くて大きな葛藤を与えられることではないかとも思います。

仏教の言葉、仏さまの教えに出遇うことは、私の中にある、しかも命終わるまでなくなることのない二面性を気づかせてくれるものだと思いました。

親鸞さまは、

「凡夫といふは、無明煩悩(むみょうぼんのう)われらが身にみちみちて、欲もおほく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむこころおほくひまなくして、臨終の一念にいたるまで、とどまらず、きえず、たえずと、水火二河のたとへにあらはれたり」（「一念多念文意」『浄土真宗聖典註釈版（『註釈版聖典』）』本願寺出版、693頁）

とお示しになっています。

合掌

万行寺第十八世住職　釋靜芳（本多 靜芳）

※ご縁のあったあなた！　第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様·御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様·御手紙』を学びにいらっしゃいませんか？　お待ちしてます（会費はいずれも資料·茶菓代として千円です）。

「ナムの会」は一月と十二月は休会します。